



未来へ導くチカラ

Power of leading you to future.



第43期

上半期報告書 2011年4月1日～2011年9月30日



SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.

株式会社 セゾン情報システムズ

証券コード：9640

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より当社の経営に多大なるご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第43期上半期（2011年4月1日～2011年9月30日）の業績と当期よりスタートいたしました中期経営計画についてご報告申し上げます。

2011年12月

代表取締役社長

宮野 隆



当上半期のポイント

当上半期業績は好調、 増収増益

各事業において既存顧客との取引
拡大や新規顧客の獲得に注力

中期経営計画、 好調なスタートを切る

「存在価値の高い企業へ」という中期ビジョン
のもと具体的施策を次々と実行中

当期より 中間配当を実施

業績との連動性を強化し、
安定配当を実行

当上半期の業績について教えてください。

当上半期の事業環境は、東日本大震災による消費の冷え込み、国内株式市場の低迷が見られたものの、当社グループは着実に成長路線を歩むことができました。これは、創業時からご支援いただいておりますお客様のお力はもちろん、当社が長年培ったノウハウにより事業バランスが良好に推移したこと、事業全体に占めるストックビジネスの割合が高くなり外部環境に左右されにくい経営体制を構築できたことに加えて、金融システム事業、流通サービスシステム事業、BPO事業、HULFT（ハルフト）事業を積極的に展開し、既存顧客との取引拡大や新規顧客の獲得に注力してきたためです。

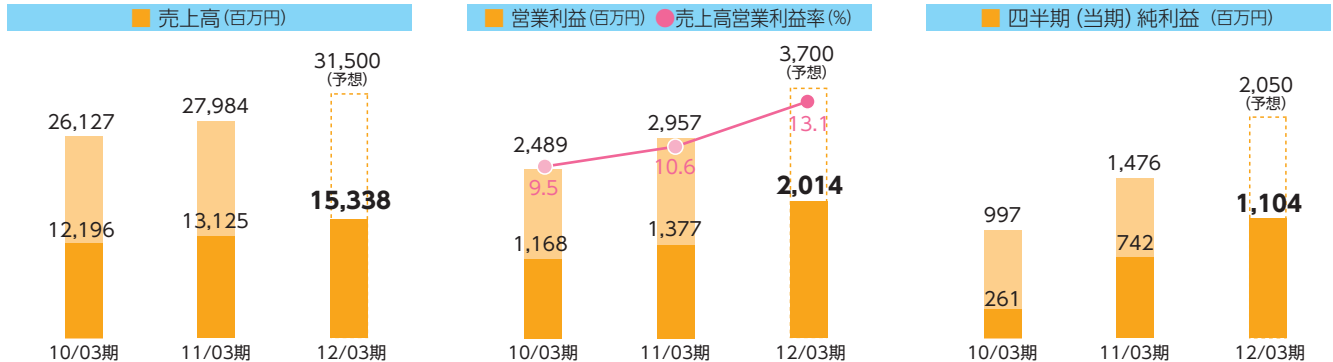
こうした事業活動の結果、当上半期における連結売上高は15,338百万円、営業利益は2,014百万円、四半期純利益は1,104百万円といずれも前年同期実績を上回る成果を上げることができました。

中期経営計画と今後の見通しを教えてください。

当期が初年度となる中期経営計画は、去る10月13日に通期の業績予想を上方修正発表しており、好調なスタートを切っております。

前期に終了した前中期経営計画では「顧客創造企業へ」をビジョンに掲げ、顧客拡大と営業力の強化を図りました。新中期経営計画では顧客基盤の更なる充実を目標に、

■● 通期 ■● 4～9月期



「存在価値の高い企業へ」のスローガンのもと、『営業力の強化』『商品・サービスの拡充』『人材育成と活用』を3つの柱として、継続的な成長とともに、社会から支持される企業を目指してまいります。

具体的にはこの3年で『商品・サービスの拡充』として新たな製品・サービスを創り出してまいります。IT投資の潮流が「所有から利用へ」と転換する中、東京都江東区に新設したデータセンターへの移転を進め、次の事業展開の基盤を整えてまいります。また、『営業力の強化』を図るとともに、社員個々の存在価値を高めるために『人材育成と活用』にも取り組んでおり、技術職はもちろん営業職、事務職の社員全員がIT技術の資格取得100%を掲げて邁進してまいります。

以上の施策の遂行により、2014年3月期に連結売上高320億円（2011年3月期実績：280億円）、売上高営業利益率15%（同：10.6%）の達成を目指します。

■ 株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

役員、社員一丸となり、継続的な成長の実現に向け、

より一層の努力を重ね、新中期経営計画を完遂し、皆様のご期待に沿うよう邁進する所存です。配当につきましては、当社事業は下半期に収益が偏重する特性があるため、通期の業績を勘案して期末配当のみを実施しておりましたが、株主の皆様により利益還元できるよう、当期より中間配当を実施させていただくことにいたしました。中間配当金につきましては、1株当たり10円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後ともセゾン情報システムズへの一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当第2四半期末 (2011年9月30日現在)	前期末 (2011年3月31日現在)
資産の部			
流動資産		13,573	13,120
現金及び預金		5,022	6,379
受取手形及び売掛金		5,258	4,814
有価証券		400	400
仕掛品		1,590	353
その他		1,303	1,174
固定資産		11,636	10,012
有形固定資産		3,566	2,779
無形固定資産		3,546	3,121
投資その他の資産		4,523	4,112
資産合計		25,209	23,132
負債の部			
流動負債		7,566	6,387
リース債務		365	220
支払手形及び買掛金		2,895	1,876
未払法人税等		812	747
その他		3,494	3,544
固定負債		3,173	2,725
リース債務		1,474	944
退職給付引当金		1,135	1,242
その他		564	538
負債合計		10,739	9,112
純資産の部			
株主資本		14,452	13,974
資本金		1,367	1,367
資本剰余金		1,462	1,462
利益剰余金		11,622	11,144
その他の包括利益累計額		17	45
その他有価証券評価差額金		23	50
為替換算調整勘定		△5	△4
純資産合計		14,470	14,020
負債純資産合計		25,209	23,132

資産の部

資産合計は21億円増加し、252億円となりました。

■ 固定資産

「SAISOS(サイソス)*」関連の設備投資等によりリース資産が9億円増加しております。

■ 流動資産

金融システム事業の大型システム開発の進捗により仕掛品が12億円増加しております。またそのことにより支払いが先行しているなどの理由で、現金及び預金が14億円減少しております。

負債の部

負債合計は16億円増加し、107億円となりました。

■ 流動負債

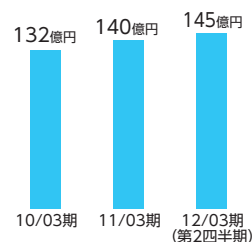
仕入債務の増加により買掛金が10億円増加しております。

■ 固定負債

「SAISOS*」関連の設備投資等によりリース債務が5億円増加しております。

純資産の部

四半期純利益の計上による増加11億円と、配当財源への割当による減少6億円により、利益剰余金は、5億円の増加となっております。



■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当第2四半期 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)	前第2四半期 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)
売上高	15,338	13,125
売上原価	11,659	10,070
売上総利益	3,678	3,055
販売費及び一般管理費	1,663	1,677
営業利益	2,014	1,377
営業外収益	58	27
営業外費用	33	21
経常利益	2,039	1,382
特別利益	6	95
特別損失	152	184
税金等調整前四半期純利益	1,893	1,294
法人税等	789	552
少数株主損益調整前四半期純利益	1,104	742
四半期純利益	1,104	742

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当第2四半期 (2011年4月1日～ 2011年9月30日)	前第2四半期 (2010年4月1日～ 2010年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	632	1,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,179	△1,599
財務活動によるキャッシュ・フロー	△808	△703
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△2
現金及び現金同等物の増減額	△1,356	△722
現金及び現金同等物の期首残高	6,379	7,189
現金及び現金同等物の四半期期末残高	5,022	6,466

■ 売上高

売上高は153億円となり、前年同期と比較して17%増加しました。

金融システム事業をはじめ、全事業において前年同期を上回りました。

■ 営業利益、四半期純利益

売上高の増加に加え、生産性向上やコスト削減などの取り組みが功を奏し、前年同期と比較して営業利益は46%増の20億円、四半期純利益は49%増の11億円となりました。

現金及び現金同等物(資金)は、前年度末より14億円減少しております。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が19億円ありましたが、法人税等を納付したことなどにより、営業活動により得られた資金は6億円となりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

「SAISOS*」関連の設備投資を中心に投資活動に12億円使用いたしました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

主に配当金の支払いなど、財務活動に8億円使用いたしました。

*SAISOS(サイソス)とは、当社が提供するクラウド型ホスティングサービスの名称です。

セグメント別の状況

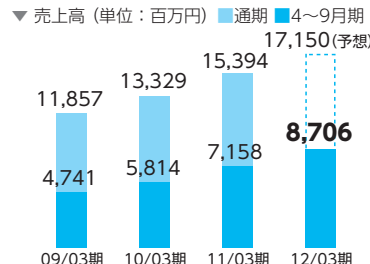
*当社は2011年3月期より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用し、主に製品サービス別および顧客業態別に4事業に分類し、報告セグメントとしております。
*09/03期および10/03期は参考値。

金融システム事業

売上高 **87億円**
(前年同期比22%増)

営業利益 **8億円**
(前年同期比5%増)

- 大型のソフトウェア開発案件が順調に進んでおります。
- クラウド型ホスティングサービス「SAISOS(サイソス)」も売上増に寄与しています。
- 営業利益は前年同期に比べ5%増加の8億円となりました。

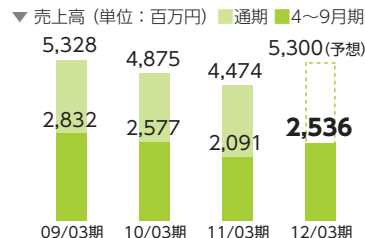


流通サービスシステム事業

売上高 **25億円**
(前年同期比21%増)

営業利益 **3億円**
(前年同期比658%増)

- 新規顧客開拓、既存顧客深耕などの施策が奏功し、大型のソフトウェア開発案件が堅調に推移したことにより、売上高は前年同期から21%増加の25億円となりました。
- 売上の増加や生産性の向上による原価抑制の効果により、営業利益も約7倍と大きく増加しました。

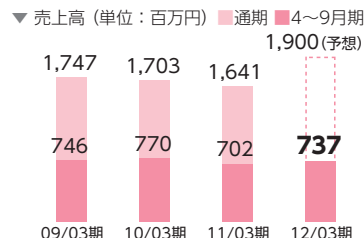


B P O 事業

売上高 **7億円**
(前年同期比5%増)

営業利益 **△0.6億円**
(前年同期は△0.4億円)

- 新規顧客の獲得や、インターネット給与明細照会サービス「Bulas Payslip Mobile (ビューラス ペイスリップ モバイル)」の伸びにより、売上高は前年同期に比べて5%増加しました。
- 営業損失を計上しておりますが、徹底したコスト削減、効率化を進めた結果、収益構造は改善しつつあります。

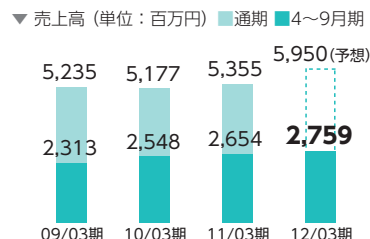


H U L F T 事業

売上高 **28億円**
(前年同期比4%増)

営業利益 **14億円**
(前年同期比10%増)

- 累計出荷数が約138,000本、導入会社数は約7,000社を超えました。
- 新製品の、中国版HULFT (ハルフト)「海度(ハイドゥ)」、データ連携基盤製品「iDIVO (アイディーボ)」も順調な立ち上がりとなっております。



■ 配当政策

当社では、収益の向上が株主の皆様への利益還元に直結する業績との連動性強化と、万一業績が悪化しても一定の配当水準を維持する安定配当の両立を図りたいと考えております。その考えのもと、利益配分に関しては以下の基本方針を掲げております。

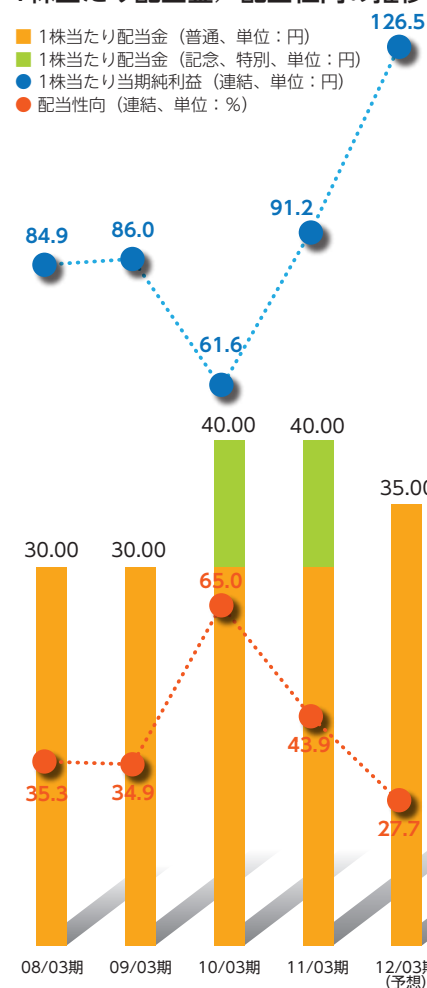
当社の配当に関する基本方針

- **業績との連動性強化**
 - ・ 連結当期純利益の3割前後を目安に配当を確保いたします。
- **安定配当**
 - ・ 万一の業績悪化時にも、1株当たり10円の配当金を維持するよう努めております。
- **中間配当について**
 - ・ 業績連動型の配当方針をとっているため、通期の業績が確定してから配当額を決定しておりましたが、より株主の皆様へ利益還元できるよう、当期より安定配当部分の10円を中間配当として実施することにいたしました。

配当性向の変化についての補足

- 2011年3月期は、業績が好調であったことから、1株当たり10円の特別配当を実施いたしました。これにより、1株当たりの配当は普通配当を加えた40円となりました。
- 2012年3月期は、利益水準の見通し、財務状況、株主の皆様への利益還元などを総合的に勘案し、年間の普通配当を1株当たり35円とする予定です。
- 2010年3月期の配当性向が近年では非常に高いものとなっております。これは次の2つの要因によるものです。
 - ① 2010年、創立40周年を迎えたことを記念し、1株当たり10円の記念配当を実施したこと。
 - ② 2010年3月期は新センターへの投資に伴う特別損失によって、当期純利益が大幅に下がったものの、前向きな投資による減益であることから、例年並の配当30円を維持したこと。

1株当たり配当金／配当性向の推移





当社の事業内容をより一層ご理解いただくために、
当社の4つの事業をシリーズでご紹介してまいります。
今回はHULFT事業について、事業部のメンバーと
宮野社長との座談会形式でご紹介します。

■ 「HULFT」とは

西川：TCP/IP*ベースのあらゆるネットワーク環境や異なるOSの機種間で、データを安全かつ容易につなぐことを可能にするソフトウェアが「HULFT」です。例えば、スーパーマーケットの販売管理データと物流拠点をつないだりするなど、私たちの生活と密接に関わりのあるシステムをしっかりと支えています。

藤田：大企業ほど複数のベンダーの製品やシステムが使用されています。そうしたベンダーの違いを乗り越えて、データ連携を簡単に実現するのがパッケージ製品「HULFT」です。現在、7,000社を超えるお客様に採用され、日本国内ではデファクトスタンダードとなっています。

■ アイディーボ 新製品「iDIVO」の発売と今後

宮野：「HULFT」がデファクトスタンダードになって市場に受け入れられているからこそ、市場の次のニーズを把握して新たなコンセプトの製品を開発する必要性があった。

西川：「HULFT」と肩を並べる商品をつくっていく、それが「iDIVO」です。「iDIVO」は必要な機能だけを適材適所に配して、自由なデータ連携を実現させるデータ連携ミドルウェアです。適用範囲が広いので、「HULFT」

を導入済みの企業はもちろん新規顧客層の開拓も狙っています。

藤田：営業的にはこの夏からセールスを開始して、少しずつ認知度を高めているところです。

石橋：私は営業をサポートしつつ、お客様の声を開発側に反映していくパイプ役をしていますが、新製品を育てていこうということでは営業も開発も思いは一緒です。

坂田：開発側としては、お客様のご要望を十分に満たす機能が製品に実装できるよう、日々開発を進めています。

■ ハイドゥ 中国版HULFT「海度」販売開始

西川：上々のスタートを切っています。複数の現地法人と代理店契約を結び、販売開始後すぐに初受注。計画より早く導入実績ができました。



藤田：非常に早い初受注で、今後が期待できます。

宮野：単に中国語版をつくったのではなく、「HULFT」そのものを中国化したのが「海度」。中国の商習慣や文化を考慮した、中国製品として販売したことが好感触につながっていると思う。

坂田：今後は導入された中国のお客様から中国の文化に沿った改良の要望が出てくると思うので、スピーディーに実装してお客様に渡せるような開発体制が求められていくと思います。

石橋：「海度」も「HULFT」同様に中国のお客様の声を聞いてさらにバージョンアップすることで、国内の「HULFT」同様に受け入れられるようにしたいですね。

■ さらに広がるマーケットへ、それぞれの思い

坂田：マーケットのニーズやお客様の声を反映させた製品をどれだけ早く製品に実装できるのか、費用対効果のある開発手法を探していきたいと思っています。

石橋：「HULFT」が長くお客様に受け入れられているのは品質の高さにあると思うので、「iDIVO」をはじめ、さらに高品質な新製品をお客様に提供できるよう取り組んでいきたいですね。

藤田：国内市場において、「HULFT」は高いシェアを誇



っていますが、「HULFT」の需要は今後も多く見込まれます。また、「iDIVO」を含めた関連商品を販売することで、新たな市場を開拓していきたいと思います。海外においては、成長の余地がある中国市場でビジネス展開することで、さらなる成長を実現していきます。

西川：2011年3月期ではHULFT事業の売上は54億円でしたが、新中期経営計画が終了する3年後には、新製品「iDIVO」と中国進出を梃子に事業全体で70億円を達成することが目標です。

宮野：HULFT事業は、社内の他の事業と比べてメーカー的な要素が強いため、自ら市場のニーズを把握し、それに応える製品を開発し、販売していかなければいけない。頻繁に移り変わる市場の動きに対応できるよう、営業と開発が連携し、スピーディーにすべてを進めてほしい。



座談会メンバー（右より）

西川 信次 取締役 HULFT事業部長
HULFTが誕生した時から関わってきた「HULFTの父」的存在。HULFTの変遷を見てきた目でこの先の未来を見据える。

藤田 篤 HULFT事業部HULFT営業部 部長
HULFTの販売を推し進める営業の牽引役。新製品「iDIVO」および中国市場進出で活気づく営業部を率いる。

石橋 千賀子 HULFT事業部商品開発一部 次長
HULFTの販売開始当初から開発に携わる。現在は高品質な製品をお客様にご提供できるよう、営業と開発の双方をつなぐ橋渡しの存在として活躍。

宮野 隆 代表取締役社長

坂田 洋光 HULFT事業部商品開発一部 開発二課
業界No.1となりすでにデファクトスタンダードとなっていたHULFTの開発に携わりたいため入社。HULFTの次代を担う若手技術者。

事業紹介

金融システム事業

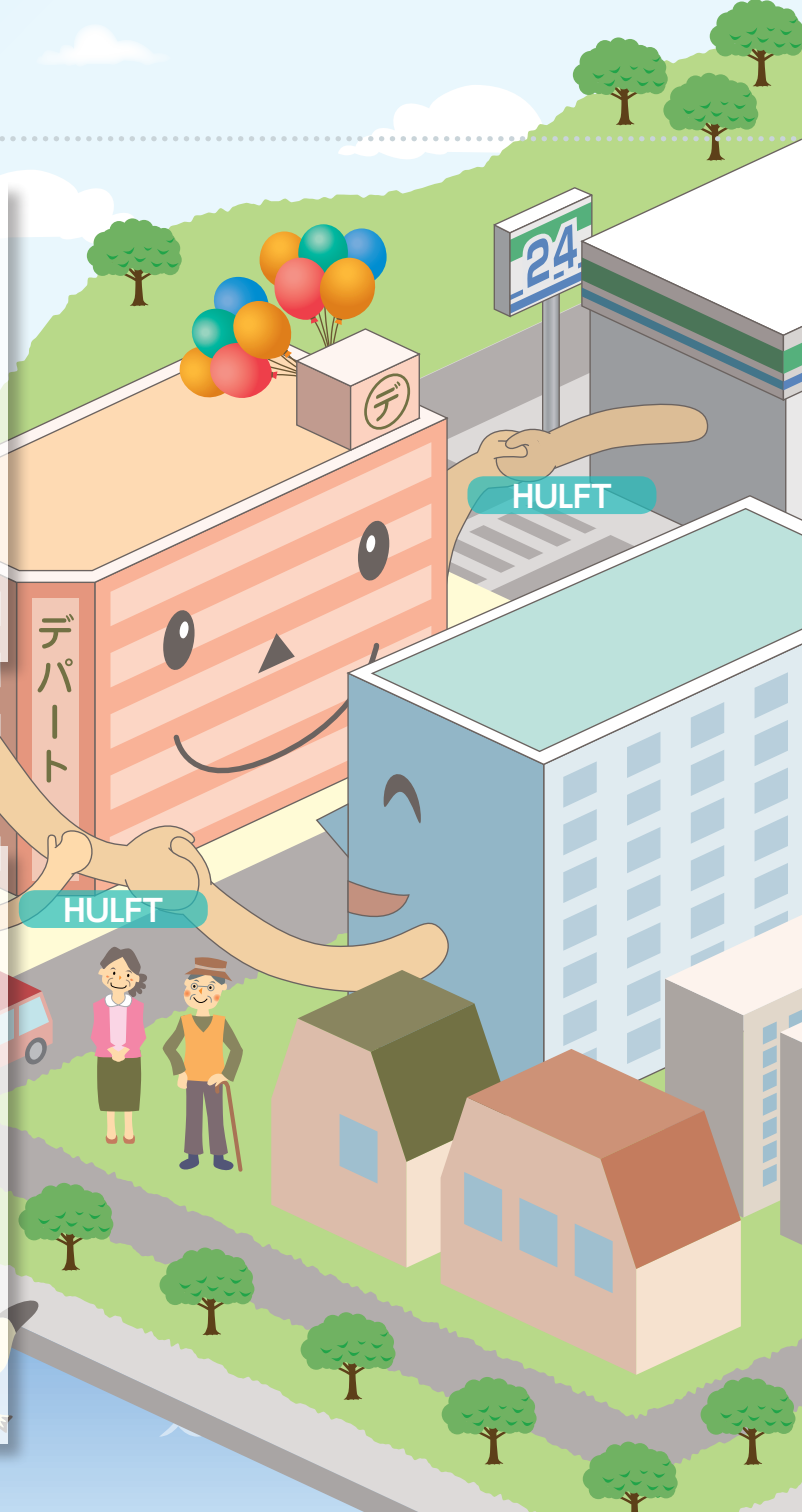
国内でもトップクラスの加入者を有するセゾンカードの情報システム構築から運用管理までを一貫して行っています。また、生損保業界などクレジットカード以外の業界にも事業を展開しています。今後は引き続き既存顧客の大型システム開発案件を着実に遂行するとともに、新規顧客の開拓にも注力していきます。



HULFT事業

銀行とATM、本社と工場、小売店と物流倉庫など、私たちの社会を行き交う無数のデータを安全かつ迅速につなぐ役割を担っているのが、当社の自社開発パッケージ製品「HULFT」^{ハルフト}です。現在、データ連携分野で国内トップシェア^{アイディーボ}を誇る「HULFT」に続き、新発想のデータ連携基盤製品「iDIVO」^{アイドゥ}を市場投入し、販売を強化していきます。さらに中国版HULFT「海度」の販売を開始、中国における拡販を進めていきます。

* 「2011パッケージソリューション マーケティング便覧」
(2011年5月発刊)
富士キメラ総研調べ



流通サービスシステム事業

スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどに並ぶ膨大な商品。これらの商品の管理をはじめ、受発注、物流倉庫管理、要員の配置など多岐にわたる業務を抱える小売業の現場を支えているのが当社のソリューションです。今後は新規顧客の開拓や既存顧客内でのシェア拡大、クラウド関連ソリューションなど新製品・サービスの開発を推進していきます。

HULFT

BPO事業

給与計算、勤怠管理など人事部門の業務を代行するアウトソーシング/ASPサービスを提供。近年では携帯電話やスマートフォンから給与明細を確認できるサービスやインターネット経由で勤怠を申請できるサービスを開発し、事業フィールドを広げています。今後は新潟BPOセンターの更なる活用を進め、品質の向上と低コスト化を推進します。

当社は、株主の皆様とのコミュニケーションを重視しており、皆様から頂くご意見を真摯に受け止め、今後のより良い活動に活かしていきたいと考えております。今回は多くの株主の皆様から寄せられるご質問に対してお答えさせていただきます。



中期経営計画で
強化項目としている
「ストックビジネス」
とは？

「ストックビジネス」とは、契約に基づき固定的かつ定期的に収益が得られるビジネスのことです。これに対し、システム構築や機器販売など一時的な収益を得るものは「フロービジネス」とされます。

当社では、自社データセンターを活用した運用サービスや、HULFT製品の保守サービス、クラウド型ホスティングサービス「SAISOS(サイソス)」、給与計算代行サービスなどが「ストックビジネス」にあたります。



株主優待制度は
ありますか？

当社では、株主優待制度は設けておりませんが、株主の皆様への利益還元を経営上の重要政策として位置付け、収益の向上が株主の皆様への配当に直結する「業績との連動性強化」と、万一業績が悪化しても一定の配当水準を維持する「安定配当」の両立を図り継続的な配当を行ってまいります。

なお、これまでは通期の業績が確定してから配当額を決定しておりましたが、より株主の皆様へ利益還元できるよう、当期より安定配当部分の10円を中間配当として実施することにいたしました。
(詳細はP6をご覧ください。)



歴史的な円高水準が
続いていますが、
業績への影響は
ありますか？

当社の売上高全体にしめる海外売上高の割合は極めて小さく、また、システム開発にあたって海外からの調達はほぼ行っていないため業績への直接的な影響は現状ではほとんどありません。

なお、顧客企業の円高による業績悪化からシステム投資に対するコスト抑制が発生した場合は、業績への影響がでる可能性があります。 「ストックビジネス」の割合をより高めるなどの施策を進め、安定的な収益を確保するべく備えております。

第42期年次報告書「株主様アンケート」集計結果

第42期年次報告書送付の際に実施いたしました「株主様アンケート」にご回答いただきありがとうございました。簡単ではございますが、主な質問項目に対する回答結果についてご報告申し上げます。

1 当社を知ったきっかけ

回答が多かった5項目

1. インターネット検索37.7%
2. 株式専門誌.....30.7%
3. 新聞14.1%
4. 知人の紹介..... 8.4%
5. その他..... 7.7%

2 当社株式の保有理由について

回答が多かった5項目

1. 配当利回り.....55.4%
2. 将来性.....28.7%
3. 業績20.1%
4. 安定性..... 18.1%
5. 値上がり期待..... 17.9%

「配当」「将来性」に関して寄せられたご意見

●継続的成長と共に安定的高配当をこれからも期待している ●中間配当の実施はありがたい ●企業価値向上に向け全力を挙げてほしい ●事業内容に将来性と安定性があり安心して持っていられる

当社株式の保有理由としては、配当利回りを重視する方が圧倒的に多い結果となりました。次いで多くの方が将来性にご期待されていることがわかりました。当社といたしましては、本年4月に策定した中期経営計画を着実に遂行し、企業価値を向上させていくとともに、株主の皆様への利益還元に努めてまいります。

「第42期年次報告書」に関して寄せられたご意見

●全体的に図表が多く簡潔でわかりやすい ●事業内容にイラストが入りわかりやすくなった ●中期経営計画をもっと詳しく知りたい ●現場の具体的事例があるとよい ●事業内容について特集記事があると良い ●専門用語がわかりにくい

当社の事業についてより詳しく知っていただくために、今号より各部門を座談会形式にてご紹介することといたしました。1回目となる今回は、中国への進出や新商品「iDIVO」の販売開始などが注目されるHULFT^{ハルフト}事業部を取り上げました。是非ご一読ください。

また、その他ご指摘いただきました改善点は、解消していくべく今後も工夫を重ねてまいります。

アンケートはがきを同封しております。2012年2月末日までにご回答いただいた皆様には、Quoカード500円を進呈いたします。株主の皆様のご貴重なご意見を今後の経営とIR活動に活かしていきたいと考えておりますので、ご協力のほど、お願い申し上げます。

2011年4月に発表した中期経営計画では、「営業力の強化」「商品・サービスの拡充」「人材育成と活用」の3つを重点施策として掲げております。ここでは各施策の上半期における具体的な活動状況をご紹介します。

商品・サービスの拡充

☑ ^{ギフト}「GIFTクラウドサービス」の販売を開始

小売業向けソリューション「GIFTクラウドサービス」は、お中元・お歳暮や、母の日・父の日などのギフト関連の業務を、トータルでサポートするクラウド型のサービスです。

☑ インターネット給与明細照会サービス
^{ビューラス ベイスリップ モバイル}
「Bulas Payslip Mobile」が
スマートフォンに対応

これまでは、パソコン、携帯電話の専用画面のみでご提供してまいりましたが、スマートフォン専用画面によるサービスの提供も開始したことで、さらに利用しやすくなりました。

☑ ^{ハルフト}中国版HULFT ^{ハイドウ}「海度」の販売を開始

中国現地のニーズを反映した中国版HULFTを販売することで、今後拡大が期待される中国市場へ攻勢をかけていきます。

☑ ^{アイディーボ}データ連携ソフト「iDIVO」の販売を開始

「iDIVO」は、必要な機能だけを適材適所に配し、自由自在なデータ連携を実現させる新発想のデータ連携ミドルウェアです。

営業力の強化

☑ 既存顧客の多分野深耕

事業部間でお互いの顧客を紹介しあう「クロスセル活動」に注力し、年間目標件数の60%を達成、前年の同時期に比べても、約30%増加しています。

☑ 新規顧客の開拓力強化

年間の受注目標件数に対して、現在93%の進捗率です。前年の同時期と比べて40%強の増加率となります。

人材育成と活用

☑ 新人事制度の運用を開始

階層別研修の実施・キャリアデザイン制度の導入・能力開発目標の設定を行うなど、当社のビジネスを担う人材の育成を順次進めております。

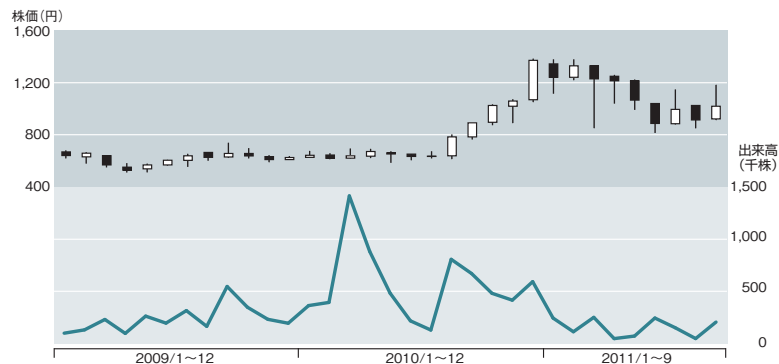
株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000株
発行済株式の総数 16,200,000株
株主数 1,669名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社クレディセゾン	7,588	46.84
ロイヤルバンクオブカナダトラスト カンパニー(ケイマン)リミテッド	4,236	26.15
セゾン情報システムズ社員持株会	579	3.58
株式会社インテリジェントウェイブ	500	3.09
大日本印刷株式会社	307	1.90
バンクオブニューヨーク・ジーシーエムクライアントアカウント ジェイピーアルディアイスジーエフイーイーシー	252	1.56
株式会社みずほ銀行	196	1.21
有限会社福田製作所	172	1.06
株式会社三菱東京UFJ銀行	80	0.49
富士通株式会社	80	0.49

株価情報



所有者別分布状況

株式分布状況

株主	%	千株
金融機関	2.78	450
証券会社	0.24	39
その他の国内法人	53.99	8,746
外国法人等	28.99	4,696
個人その他	14.00	2,269

株主数分布状況

株主	%	名
金融機関	0.54	9
証券会社	0.84	14
その他の国内法人	1.14	19
外国法人等	1.86	31
個人その他	95.62	1,596

会社概要

商 号 株式会社セゾン情報システムズ
SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.
設立年月日 1970年9月1日
資 本 金 1,367,687,500円
従 業 員 数 1,113名(連結)、747名(単体)
本店所在地 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号
TEL:03(3988)2020(代表)

役員構成

代表取締役会長	横	山	三	雄
代表取締役社長	宮	野		隆
専 務 取 締 役	田	辺	圭	佑
取 締 役	野	津	浩	生
取 締 役	西	川	信	次
取 締 役	瀧	澤		靖
取 締 役	水	上	龍 太	郎
取 締 役	赤	木		修
取 締 役	土	橋	眞	吾
取 締 役	田	中	順	
取締役(非常勤)	安	達	一	彦 ^{*1}
取締役(非常勤)	川	野	忠	明 ^{*1 *2}
監 査 役	菅	崎		悟 ^{*1}
監 査 役	北	條	慎	治 ^{*1 *2}
監査役(非常勤)	三	木		茂 ^{*1}
監査役(非常勤)	森	信		等 ^{*1}

^{*1} 社外取締役、社外監査役

^{*2} 独立役員

関係会社の状況

株式会社フェス	資本金 : 6,000万円 出資比率 : 100% 事業内容 : 情報処理サービス
株式会社HRプロデュース	資本金 : 6,000万円 出資比率 : 100% 事業内容 : 人材派遣、人材紹介
世存信息技术(上海)有限公司	資本金 : 3,000万円 出資比率 : 100% 事業内容 : ソフトウェア開発

株主メモ

事 業 年 度	4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会	3月31日から3ヶ月以内
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は 9月30日
単 元 株 式 数	100株
株 主 名 簿 管 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同 事 務 取 扱 場 所	みずほ信託銀行株式会社
〔郵便物送付先〕	〒168-8507
〔電話照会先〕	東京都杉並区泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL : 0120-288-324 (フリーダイヤル)